

順正学園(吉備国際大学)と連携協力協定締結



▲連携協力協定書に調印を終えた中田市長、加計理事長(中)、安倍淡路県民局長(右)

4月に開学した吉備国際大学地域創成農学部を運営する学校法人順正学園と市、県が5月14日、それぞれ連携協力協定を締結しました。

今回の協定はお互いの資源の交流と活用を図り、人材育成、産業振興、まちづくり等において協力し、将来にわたる双方の発展に寄与することを目的としています。

調印式には同学園の加計美也子理事長と中田市長、淡路県民局長の安倍茂局長が出席し、協定書に調印しました。加計理事長は「相互に連携することで、産業振興や地域の課題解決に寄与できることを期待している」と話し、中

田市長は「地域の人々と学生が交流できるような講座を期待する。また将来の農業に貢献できる人材の育成に共に協力する」と話しました。また今回の調印式の前に同学園と県立淡路三原高等学校との間でも連携協力協定が締結されました。

同学園では36校目となる高大連携・教育提携校。今回の連携が両校の教育及び研究の質を高め、これからの地域社会に貢献できる人材育成に寄与することを目的としています。



▲調印された同学園と市の連携協力協定書

南あわじ直売フェアで特産品をPR



▲直売フェアを訪れた多くの家族連れ

南あわじ市を売り出そう！物産展に出店

市内の優れた「ふるさと資源」の広報宣伝及び販路拡大を目的に、市特産物販路拡大・物産展協議会が、4月27日に西宮市で開催された「南あわじ&西宮とれとれ市」に参加しました。

今回は淡路島地震の後ということもあり、風評被害対策として淡路島の元気を積極的にPRしてきました。当日は天候にも恵まれ、榎列幡多の生産者による新タマネギなどの新鮮野菜の販売は

初夏の陽気となった5月12日、淡路ファームパークイングラントの丘で市直販所連絡協議会による「南あわじ直売フェア」が開催されました。同協議会は機会あるごとにイベント等に出店し、市内の特産品である安全・安心・新鮮な農水産物を広くPRすることで、産地のファンづくり、ブランドづくりを行って

おうと事前に配布した入園無料券付きのチラシを利用して多くの市内の人も来場。市が誇る特産品の農水産物を買って求めています。会場内では「レタスのしゃぶしゃぶ」や「福良産のもずく」などの試食コーナーもあり、「おいしい」と声があがっていました。同協議会は「これからも特産品をPRして、南あわじ市のファンを増やしたい」と話していました。



▲市が誇る新鮮な野菜を買い求める人たち

高齢者見守り事業でコープこうべと市が協定締結



▲5月13日、協定を締結したコープこうべ第5地区本部 田中浩太郎本部長(左)と中田市長

市は「生活協同組合コープこうべ」と高齢者見守りに関する協定書を締結しました。

市では地域の民生委員や在宅介護支援センターなどと連携しながら高齢者が住み慣れた地域で安心して充実した生活を営めるよう見守りを行っています。その見守りネットワークに民間事業者も加わることで、よりきめの細かい見守り体制をつくること

淡路だんじり祭が開催



▲淡路だんじり祭で練りを披露する祭礼団

淡路だんじり祭が4月29日、三原健康広場で開催されました。絢爛豪華なだんじり20台が集まって、勇壮な練りやだんじり唄を熱唱して会場を沸かせました。獅子舞や子供たちの竹太鼓なども会場を盛り上げ、連休中の天候にも恵まれたこの日は、約1万人が訪れて賑わいました。最も祭りを盛り上げた祭礼団に青木祭礼団が2年連続で選ばれました。※祭りの内容はケーブルテレビで放送します。ご覧ください。

※さんさんネットでも6月放送予定 (広報11頁に番組表掲載)

市連合自治会総会が開催



▲あいさつを行う原 孝会長

南あわじ市連合自治会総会が4月27日に行われました。総会では前年度の連合自治会

の活動報告や退任する自治会長への感謝状贈呈をはじめ、今年度の活動方針の発表などが行われました。

- 平成25年度の新役員は次の人たちです。※敬称略(所属地区)
- 会長 原 孝 (福 良)
 - 副会長 上川 宜男 (三原志知)
 - 中島 義晴 (広 田)
 - 西田 友二 (津 井)
 - 松坂 壽仁 (潮美台)
 - 会 計 木場 徹 (丸 山)
 - 会計監査 梶田 佳孝 (倭 文)
 - 野口 健一郎 (榎列・倭文)

今年こそ良太郎西瓜をめざして！



▲熱心に研修を受ける農家の人たち

杉良太郎さんが提唱する思い出深い昔の西瓜の復活をめざし「南あわじ良太郎西瓜」の定植実地研修が5月8日、イン

グラントの丘で行われました。今年市内直売所の会員農家も加わって約70人が栽培に挑みます。奈良県で西瓜の育

種を行っている(株)萩原農場や南淡路農業改良普及センターの職員の説明に熱心に耳を傾けて研修を受けていました。

「もうちょっとで良太郎西瓜」に選ばれた2品種を今年各農家に配布。認定をもらえる西瓜に育てあげ、将来は市の特産化をめざします。杉さんが子供のころに食べた思い出のある西瓜は「皮が薄く、割ると西瓜の良い香りが周りに広がり、なめらかで舌触りの良い西瓜」です。農家の人たちは「今年こそ、杉さんに認めてもらえる西瓜をつくりたい」と意気込みを話していました。